



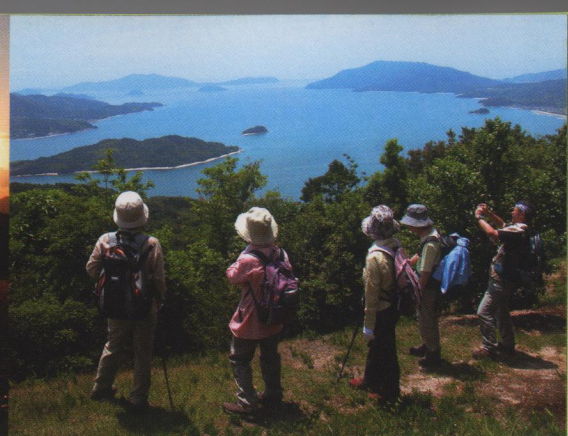
安芸太田町(広島県)の花田植え祭



仏通寺(広島県)の紅葉



三瓶山麓(島根県)の夕暮れ時



中国地方には海沿いの里山もある(琴石山・山口県)

心の原風景、里地歩きの魅力

里地・里山は「物語」の舞台

里地・里山がなぜ今、注目されているのだろうか？

里山という言葉はすでに市民権を得ている。それに対して「里地」という言葉はあまり聞き慣れないはず。「雑木林」とか「鎮守の森」

という言葉の中に出てくる、「林」や「森」、そして「草原」や「湖沼」「小川」など自然一般を指すといっているだろうか。里地歩きは必ずしも頂上をめざすものではない。

昨今、「里山歩き」がブームとなっている。このブームも、どちらかというと「頂上を目指す登山」という印象が強い。しかし、頂上までの途上に出逢う、さまざまな自然の風景に、思わず足を止めたことはないだろうか。

それは樹間から差す木漏れ日に包まれた瞬間であつたり、路傍の可憐な花に目を奪われたり、天を突くような巨樹を見上げた瞬間であつたりする。あるいは山里の農家の苔むした石垣や、奥深

い森の中で偶然出会った炭焼き小屋の跡であるかもしれない。日本の里地・里山の自然には、人々の営みの痕跡が濃密に残されている。里地・里山を歩いていて、なぜか郷愁を覚えるのも、このあたりに秘密が隠されているのであろう。里地・里山は、数多くの「物語」の舞台となってきたのである。

ひとときの癒やし空間を求めて

ひとときの癒やし空間を求めて自然の懐に入っていくのだろうか。

人間の身体も自然の一部である。だとすれば、都会での暮らしに身体の中の自然が悲鳴を上げ始める時、「還っておいで」と手招きする里地・里山のサイレントボイスが聞こえてくるのかもしれない。そんな、「心の原風景を取り戻す」ことのできる「物語の舞台」、里地・里山をこれからご紹介しよう。